

小規模事業者

# 経済動向調査報告書

<那珂市>

2022年7月～9月期

那珂市商工会

## 1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

## 2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

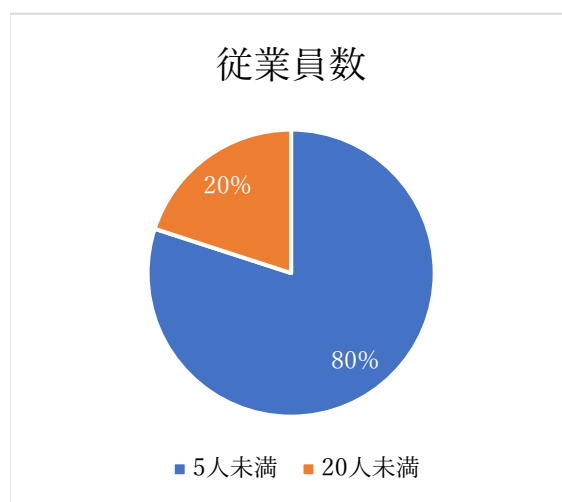
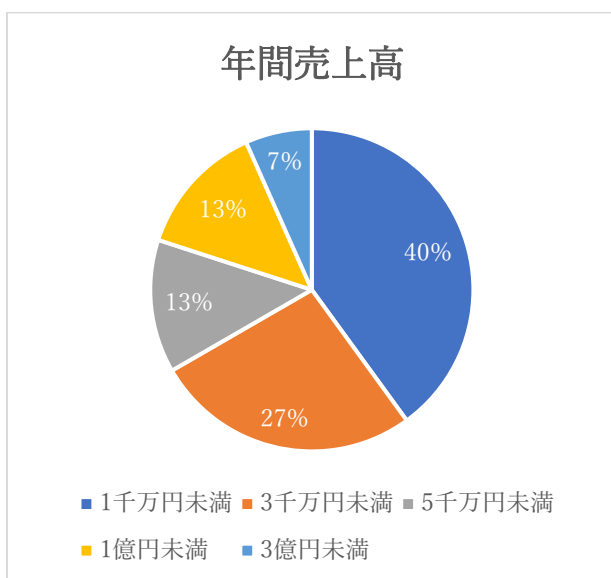
## 3. 調査事業者

- |               |     |
|---------------|-----|
| ① 製造業         | 3 社 |
| ② 建設業         | 2 社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 4 社 |
| ④ サービス業       | 6 社 |

## 4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大及び原油価格高騰の経営への影響を調査。

## 5. 事業者の規模



## I. DI 分析

表1：2022年7月～9月のDI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-33.3%	0.0%	-50.0%	-50.0%	-33.3%
販売単価	-26.7%	0.0%	0.0%	-50.0%	-33.3%
経常利益	-53.3%	0.0%	-100.0%	-50.0%	-66.7%
資金繰り	-20.0%	0.0%	-50.0%	-50.0%	0.0%
人材確保	-33.3%	-66.7%	-50.0%	-25.0%	-16.7%
景況感	-40.0%	-33.3%	-50.0%	-50.0%	-33.3%

- 継続して全項目マイナスであり、前回（2022年4月～6月）から全体的にさらに悪化している。
- 特に、経常利益の悪化が顕著であり、原油価格高騰等を背景にした経費増がいよいよ利益を低下させている様子が窺える。
- 特に、サービス業における経常利益の低迷が著しく、これは経費がますます増加したうえに、売上高まで低下しているためと推測できる。
- また、建設業も経常利益を大幅に悪化させている。
- 製造業については、業績が下げ止まりしている様子が窺え、一部企業では業績が回復しているようだが、一方で生産回復に伴い人材不足が露見している様子も窺える。

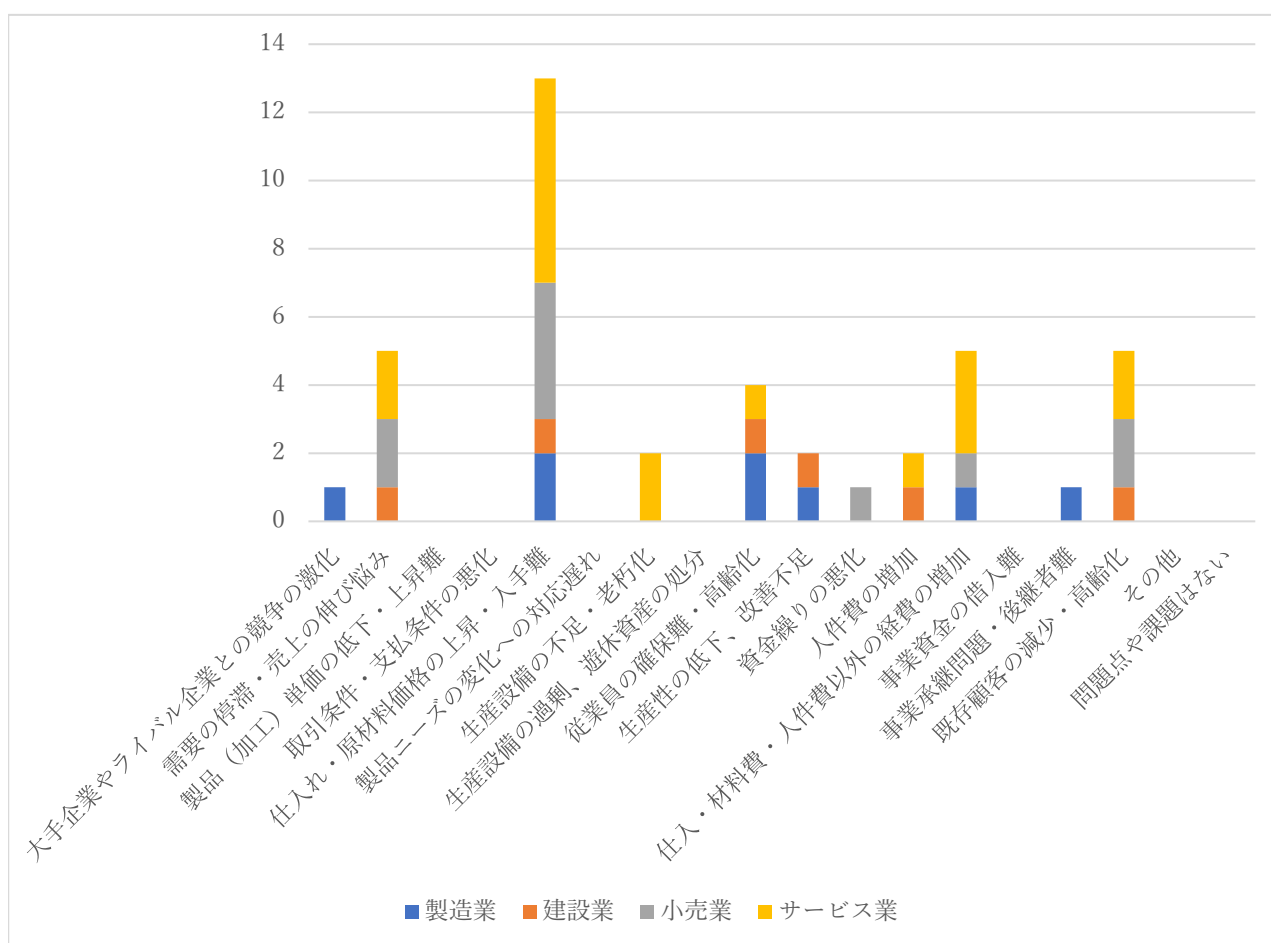
### DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

## II. 課題意識調査

図1 2022年7月～9月の課題意識



- 相変わらず、仕入れ難・経費増の問題が著しく、前回に比べ、特に小売業、サービス業で商品や原材料の問題が増加している。
- また、人件費も一部の業種で増加しており、さらに経費増に拍車がかかっている。
- また、今回は回復傾向にあった需要・売上の伸び悩みが再び悪化しており、経費増に加え売上低下でますます収益を圧迫されている様子も窺える。この点は、DI値と関連している。
- 製造業では、DI値でも確認できたように、人材不足が問題となってきており、これに伴う生産性の低下が始まっている様子も窺える。

### III. コロナ禍及び原油価格高騰の経営への影響

図2 コロナ禍の具体的な影響の推移

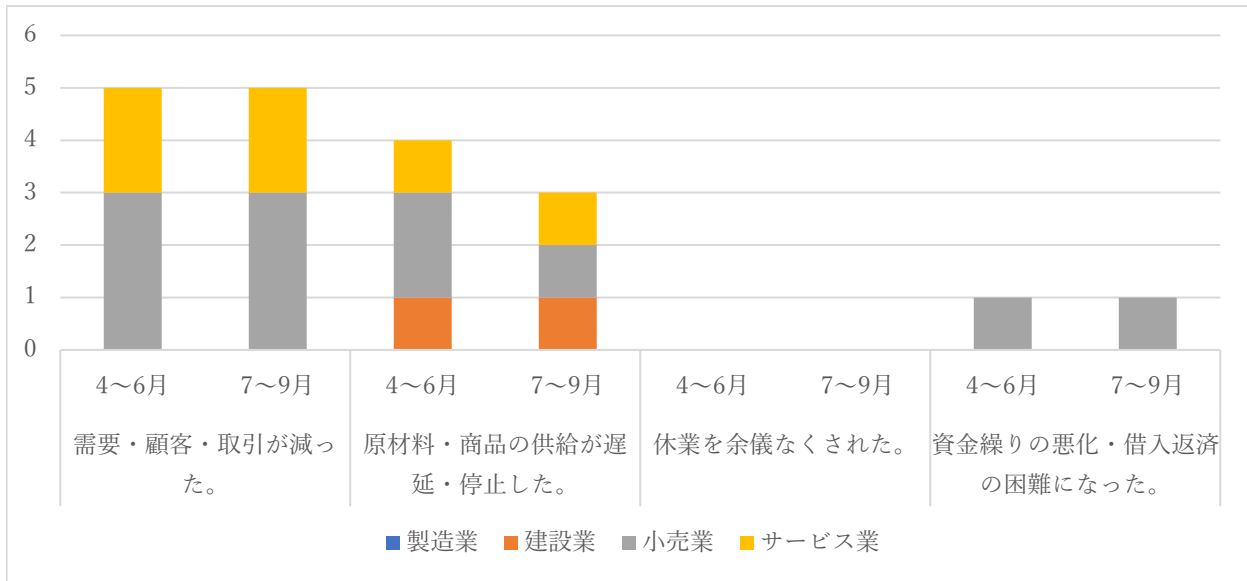
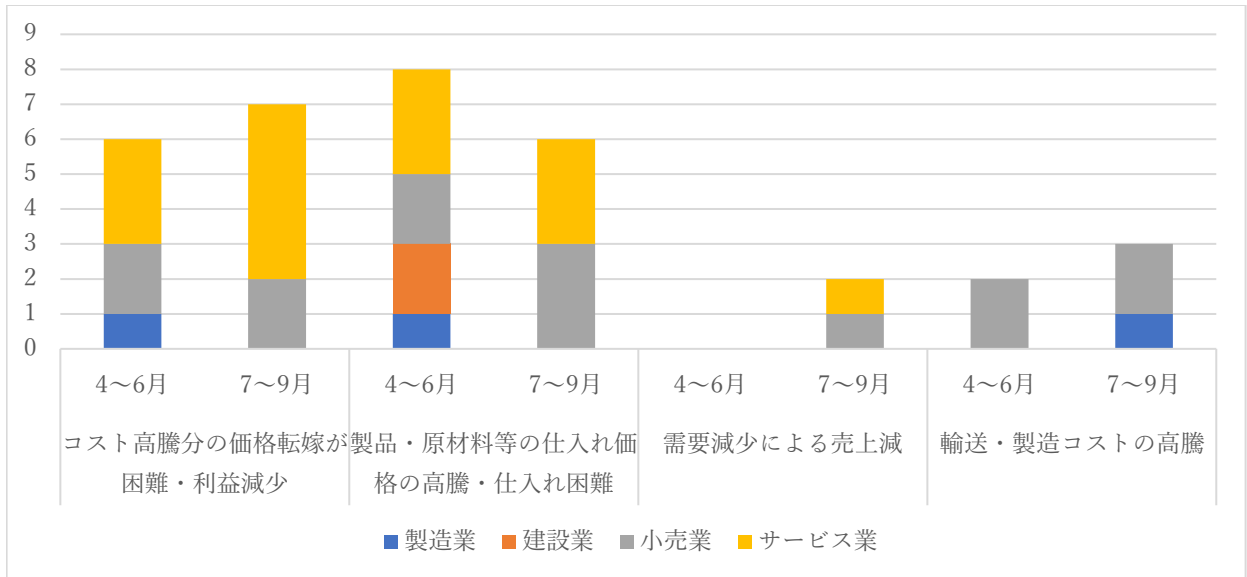


図3 原油価格高騰の具体的な影響の推移



- 小売業やサービス業におけるコロナ禍及び原油価格高騰の影響が顕著であり、これらが小売業及びサービス業における売上減少及び経費増の原因となっていると推測できる。
- 特に、原油価格高騰が小売業・サービス業の業績低迷に拍車をかけている様子が窺える。
- 一方で、製造業・建設業においては、コロナ禍及び原油価格高騰の影響は解消されつつあるように見受けられる。

以上